

ICD－10（2003 年版）・主な変更点

I ICD-10(2003 年版)適用の経緯

厚生労働省大臣官房統計情報部で行っている人口動態調査は、各市町村に届け出られた出生届、死亡届、死産届、婚姻届及び離婚届とその添付資料である出生証明書、死亡診断書（死体検案書）及び死産証書（死胎検案書）から人口動態調査票を作成し、集計、公表している。

死亡統計は、人口動態調査死亡票に基づき死亡者の性、年齢、配偶関係、死亡の場所等のほか、死亡原因についても集計し公表している。死亡原因は、WHOが勧告した「国際疾病分類（ICD）」に基づいて分類している。

疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正（ICD-10: International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 10th Revision）は、1990年5月、第43回世界保健機関（WHO）総会において採択され、わが国では平成7年1月からこれを使用することとし、人口動態統計も平成7年1月分からICD-10に基づいて分類している。

その後、医学の進歩等に対応するため一部改正が行われ1998年以降2003年までの改正が集積されたICD-10(第2版)が2004年10月にWHOより勧告された。わが国においてもWHOの最新の勧告の国内への適用(ICD-10(2003年版))について平成17年7月に社会保障審議会統計分科会より答申がなされ、平成17年10月の総務省告示第1147号に基づき、人口動態統計においても平成18年1月分から適用することとなった。

II ICD－10（2003 年版）の主な改正点

1. WHO 勧告に基づく改正

（1）新たな分類項目の設定（特殊目的用コード利用）

- ・重症急性呼吸器症候群（SARS）
- ・抗生物質に耐性の細菌性病原体

（２）項目の移動

・胃ポリープ

新生物（D 1 3. 1）から消化器系の疾患（K 3 1. 7）へ移動

・大腸＜結腸＞のポリープ

新生物（D 1 2. 6）から消化器系の疾患（K 6 3. 5）へ移動
等

（３）分類項目の廃止及び新設（特殊目的用コード以外）

廃止 8

新設 1 3

・肝臓提供者＜ドナー＞（Z 5 2. 6）

・心臓提供者＜ドナー＞（Z 5 2. 7）

等

（４）死亡統計における原死因選択ルール等の変更

死亡統計における原死因の選択について、コーディングルールの一部変更が行われ、また適用例が具体的に示される等の変更が行われた。

２．法令の改正等に基づく名称の変更

精神分裂病 → 統合失調症

痴呆 → 認知症

３．医学の進歩等に対応した名称の変更

慢性関節リウマチ → 関節リウマチ

妊娠中毒症 → 妊娠高血圧症候群

等

Ⅲ 今後の対応

WHO は今後も継続的に ICD-10 の改正（アップデート）を行うとともに、ICD-11（リビジョン）に向けての検討についても開始したところである。

わが国においても、ICD の国内への普及・啓発及び国際的動向に対応するため社会保障審議会統計分科会の下に疾病、傷害及び死因分類専門委員会を設置し、恒常的な検討を行うこととしている。